

○ QSLカード印刷 Rig/Ant設定 定義ファイル編集 QSLの定義 **条件命令** 各項目 選択して印刷 プリンタ設定 ADIF

? と条件命令の間には、空白を入れても入れなくてもかまいません。

#### QSL受領済み(Q)

? Rcv

QSL受領済みであれば、この次の一行を実行します。

#### 相手が移動運用(P)

? Potbl

移動局であれば、この次の一行を実行します。

#### 時間がUTC(U)

? UTC

UTCであれば、この次の一行を実行します。

#### 氏名が空白でない(A)

? Name

氏名が入力されていれば、この次の一行を実行します。

#### QSL経由、発行、受領関係

? QsIM

QSLマネージャー経由 (QSL欄の1文字目が **M**) であれば、この次の一行を実行します。

? Qsl1 "n"

QSL欄の1文字目が **n** であれば、この次の一行を実行します。 **n** は任意の1文字です。

? Qsl2 "n"

QSL欄の2文字目が **n** であれば、この次の一行を実行します。 **n** は任意の1文字です。

? Qsl3 "n"

QSL欄の3文字目が **n** であれば、この次の一行を実行します。 **n** は任意の1文字です。

【例】 ? Qsl3 "E"

```
#Print 130,800,"電子QSL受領済みです。"
```

#### 備考に特定の文字列(K)

? RmStr "文字列"

指定した文字列が、現在読み込んであるQSOデータ中のRemarks 1かRemarks 2に存在すれば、この次の一行を実行します。

文字列中には、!で始まる変数が使えます。

【例】 #Mov \$\$F="Turbo"

```
? RmStr "!$$F HAMLOG"
```

```
#Print 100, 500, "Turbo HAMLOGをお使いですね"
```

#### 相手がクラブ局(C)

? Club

相手がクラブ局であれば (サフィックスが **Y**か**Z** で始まる3文字であれば) 、この次の一行を実行します。 (ただし、国内局のみ)

## QSOデータに特定の文字列(D)

### ? Data1 "文字列"

現在読み込んであるQSOデータ中に特定の文字列が存在すれば、この次の一行を実行します。

**Data1** ~ **Data14**が指定できます。

**Data1**はコールサイン、**Data2**は日付、**Data3**は時間、**Data4**はHisRTS、**Data5**はMyRTS、**Data6**はFreq、**Data7**はMode、**Data8**はCode、**Data9**はG/L、**Data10**はQSL、**Data11**は氏名、**Data12**はQTH、**Data13**はRemarks1、**Data14**はRemarks2（以上、メインウィンドウの並びのとおりに）文字列中には、**!**で始まる変数を使えます。

【例】 ? Data7 "SSTV"

```
#Print 150, 400, " F Bな画像を有難うございます。 "
```

### ? nData13 "文字列1,文字列2,文字列3,文字列4,文字列5"

カンマで区切った文字列のいずれかが、現在読み込んであるQSOデータ中に存在すれば、この次の一行を実行します。

文字列1、文字列2、文字列3、... の順で探します。

カンマで区切った文字列は、CSVファイルの1行と同じフォーマットです。

それ以外は、**Data1** ~ **Data14**と同様です。

【例】 ? nData7 "FT4,FT8,JT65,JT9"

```
#Print 150, 250, "dB"
```

## 変数に特定の文字列

### ? \$\$A "文字列"

文字列変数に特定の文字列が存在すれば、この次の一行を実行します。**\$\$A** ~ **\$\$T**が使えます。

## 特定のバンドかどうか

### ? Freq n

**n** は周波数帯を示す数値です。各周波数帯ごとの数値は、次のとおりです。

1.9MHz=1 3.5MHz=2 7MHz=3 10MHz=4 14MHz=5 18MHz=6 21MHz=7 24MHz=8 28MHz=9 50MHz=10  
144MHz=11 430MHz=12 1200MHz=13 2400MHz=14 5600MHz=15 SATELLITE=17 その他又は認識できない=16

【例】 ? Freq 3

```
#Print 100, 300, "40m Band"
```

## その他

### ? DXST

相手がDX局であれば（入力ウィンドウの**DX**にチェックして保存したデータ）、この次の1行を実行します。

### ? CQde

呼ばれた場合、または自局のCQで始まったQSOであれば（入力ウィンドウの**CQ**にチェックをいれて保存したデータ）、この次の1行を実行します。

### ? Check1

### ? Check2

入力ウィンドウの**1**や**2**にチェックが入っていれば、この次の1行を実行します。

**Check1** と **Check2**が使用できます。

### ? Space "空白文字列"

文字列が空白であれば、この次の1行を実行します。この例では、Rig/Ant設定でアンテナの地上高が入力されていれば、アンテナを印字します。文字列中には、**!**で始まる変数を使えます。

【例】 ? Space! "Hi"

```
#Print 80,800,"!Him H !AN"
```

## ? User

相手のコールサインがHAMLOGユーザーリストに存在し、かつ、HAMLOGユーザーリストを開いていれば、この次の1行を実行します。

## ? End

**条件命令**の終わりを指定します。これにより**? 条件命令**と**? End**の間に、複数の命令を記載できます。

ただし、**? 条件命令**と**? End**の途中でネストして**? 条件命令**を記載することはできません。

次のように**? 条件命令**を続けて記載すれば、AND条件となりますのでOKです。

【例】

```
? Freq 3           ; 7MHzで かつ
? RmStr "湯-"      ; 温泉移動局だったら
#Print 10, 40, "!NAさん、湯加減はいかがでした?"
#Print 10, 90, "また!FRMHzでお会いしましょう!"
? End              ; ?RmStrの終わり
```

条件命令に**!**を付ければ意味が逆になります。( ? Endを除く) 例えば、**? UTC!**では、JSTであれば次の1行を実行します。

条件命令の行を続けて記述すると、AND条件で次の行を実行します。例えば、次の例ではDX局でNAME欄が入力してあれば、"FB DX Dr 名前"と印字します。

## ? DXST

**? Space! "INA"**

**#Print 100,500, "FB DX Dr INA"**